

『勇気と寛大な心を持って出かけて行きなさい』
「ミッション 2030」－祈りを深める

ミッション 2030 と 祈りを深めるセミナー ニューズレター No. 3

2017年7月31日発行

1. 家族とのかかわりをふりかえる（英神父）

1-1：なぜ家族をテーマに：

4月から毎月祈りのカードをスタッフといっしょに作ってみなさんとわかちあってきました。今回は、祈りがあまり抽象的になりすぎると実生活から浮き上がってしまったり、あるいは祈りを難しく考えすぎたりしがちなので、家族という身近なテーマを選び、具体的な家族とのかかわりに焦点をあて、みなさんとふりかえりをしながら祈りを深めることにしました。

幸せとか不幸ということを見ると、自分のことや仕事上のかかわりよりも、実際、7割くらいは家族のことではないでしょうか（私が人の人生相談に乗る経験から）。したがって日常の家族とのかかわりの中でどのように信仰と生活の統合をはかっていくかが大切になってきます。これが今回家族をテーマとして選んだ理由です。

しかしながら、このテーマは極めて難しく複雑で一律に語るができないものです。なぜなら一つひとつの家族は極めて個別的で、抱える問題は全く違うからです。このテーマだけでも年間のテーマにできると思います。

ご存知のように教皇さまが、2014年と2015年にローマで開かれた家庭をテーマにしたシノドス（世界代表司教会議）を踏まえて、2016年4月に使徒的勧告『アモリス・レティティア（愛の喜び）』を発表されました。残念ながら邦訳はまだ出来上がっていませんが、この勧告の中でも家庭に関する問題、例えば結婚、離婚、再婚などについて扱われています。

さらにあまり手にされたことはないかも知れませんが、神学の専門誌『神学ダイジェスト』夏122月号でも特集として家庭を取り上げ、結婚・離婚・再婚の問題を教会の司牧的観点から論考しています。少し難しいかもしれませんが、一読の価値は十分にありません。

今日はさわり程度になるかも知れませんが、一緒に家族とのかかわりについて一人ひとりそれぞれ自分の立場でふりかえっていきたいと思います。

ふりかえりに入る前に、余談になりますが、幸福についてさまざまな調査があります。統計的には、結婚している人のほうが独身者よりも“幸福度”が高いという客観的な結果も出ています。それに対して、現代の社会では、独身者が増えるという皮肉な現象が生まれています。また結婚している人のグループで子どもの有無により“幸福度”が変わるかどうかという統計もあります。結果は、大きな違いは無かったそうです。子どもがいることは、喜びも増えるが悩みも増えるということでしょう。

このように幸福という観点からいろいろなライフスタイルについての研究がたくさん行われていますが、私たちがふりかえりをするときは、神の目から見て何が求められているかという観点から、私たちの生活を聖霊の光のうちに見つめなおすことが大事です。

1-2: 意識の究明:

配付した資料の1枚目を見てください。前回のセミナーで意識の究明の簡単な説明をしましたが、今回は1日の終わりに15分くらいかけて行う究明を4つのポイントに分けて説明しています。

これからここで15分間ぐらいこの資料にそって実際にふりかえりを一緒にしましょう。私がそれぞれのポイントについて導きをします。私は普段使っている究明ノートを持ってくることを忘れたのですが、みなさんは目をつぶって究明してもよいですし、あるいはノートに書いても構いません。私の導きにしがたって最近の1週間、数日でも1日でも結構ですので、家族とのかかわりについて究明しましょう。

1) 心を整える (感謝)

- ・呼吸を整え、祈りやすい姿勢をとり、心を整え、最近の家族とのかかわりに感謝をしましょう。たとえ問題があったとしても私たちは神の恵みのうちに生きており、神が支えてくださっているのです、この恵みに対して心の中で感謝をしましょう。

2) 光を求める

- ・最近の生活を神の目でふりかえりましょう。たんなる自己分析でなく聖霊の光によって生き方を照らしていただくように願いましょう。聖霊の光を願いましょう。

3) ふりかえり

- ①最近家族とのかかわりで心を動かされたことはどんなことがあったでしょうか。それをふりかえり思い出してみましょう。心を動かされたことにはプラスのこともマイナスのこともあったでしょう。ノートに書き出しても結構です。
- ②書き出したものの中からひとつのポイントに心を留め、この点についてどのような気持ちだったのか、喜んでいたのか、悲しんでいたのか、怒っていたのかあるいはどのようなことに平安を感じていたのかを思い、考えて心の動

きを味わい直してみましよう。

- ③そしてこの心の動きをみて、なにか気づくことがあったかどうか考えてみましよう。

4) 神との対話

- ①神は私に何を伝えたかったのか。神の視点から、私をどう導こうとされていたのか心で聴きましょう。
- ②こんどは自分のほうから神に対して祈りの言葉で今の素直な思いをお返ししましょう。そしてこの思いに対して神がどう思われているのか聴いてみましょう。場合によってはまだ思いがはっきりとした形をとっていないことがありますけれどもかまいません。

5) 願い「お願いします」

- ・これからあるいは今日から明日、未来に向かって家族のかかわりについて必要な恵みを神に心の中で具体的に願ってみましよう。たとえば神に「私はこの点をこのようにしたいと思います」とか、家族の誰かに対して「私はこうします」とか祈ってみるなど。
- ・恵みを願って主の祈りを唱えて終わる。

1-3: その他:

- ・この究明は『霊操』の43番の一般究明を現代化したものです。
- ・1) から5) までを小さなノートに書き究明していく方法もあります。
- ・イエズス会では5本の指を使って上の5つの究明をしていたときもありました。
- ・大切なことは毎日実践して習慣にしていくことです。
- ・今後、希望があれば祈りのセミナー毎にこの究明を15分ほどするのもよいのではないかと思います。
- ・少ない人数でこの究明をしたときは、そのあとでわかちあいをするとよいと思います。

2. ルカによる福音（家族の関係をふりかえる）

2-1: 聖書と家族:

- ・福音書を読むかぎり家族を大切にしようがよいという箇所はほとんどないと思います。むしろ逆の箇所のほうが多いようです。例えば、マタイ福音書10章37では、家族に反するような「わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない、わたしよりも息子や娘を愛する者もふさわしくない。」と書かれています。なぜなら福音書は、神が第一であることを中心に書いてあるからです。
- ・パウロの書簡で家族のことに少し触れているところがありますが、あまりにも規範的できまりきったことを書いているので現代ではそのまま受けとめることが

難しいように思います。(例えば、コロサイ 3 : 18-21)

- ・ それに対し 3 月 11 日の東日本大震災のとき、被災者の多くの人々が、「家族のことが 1 番大切だ」と思っていることがよくわかりました。実際のところ、私たちにとって家族や家族とのかかわりが実際に何よりも大切なことは事実だと思います。
- ・ つぎに資料に挙げたルカ福音書の箇所 (2 : 22~2 : 52) は今私たちが家族との関係を考えるときにヒントを与えてくれているように思えます。少しこれを一緒に考えてみましょう。

2-2 : 神殿で献げられる (ルカ福音書 2 : 22~2 : 38)

- ・ この福音書の箇所は現代の 3 世代問題として家族のかかわりを読み解く一つの実例かもしれません。ひとつはイエスの父親探し、それに伴う父親不在・母子癒着、もう一つは老年期のありかたについてです。
- ・ ここではヨセフ、マリアが幼子イエスを聖別するため、エルサレムの神殿にでかけていったときのこと、そしてイエスが 12 歳になったとき過越の祭りにエルサレムの神殿に行ったときの話が述べられています。12 歳のときの出来事はイエスの 3 日間の失踪としてもよく知られています。
- ・ ユダヤ教ではバル・ミツバという成人になるための儀式があります。成人男子は 13 歳になると神殿で試験があり、これに受かると安息日にトーラなどの朗読ができるようになります。朗読には 10 人の成人男子が必要でした。この過越のときのイエスのエルサレム行きも似たような理由からだったと思います。
- ・ 少年イエスの問題は父親が誰かという問いでした。マリアは実の母ですがヨセフは養父にすぎません。子どものとき、何かをきっかけにして (例えば、近所のおばさんから話されたとか)、ヨセフが本当の父ではないことを知ったでしょう。それから彼は本当の父親は誰なのか心の中で探していたかもしれません。そしてついに神殿の中で、神こそが自分の真の父であることを悟りました。だから彼は、神を「アッバ、お父さん」と心から呼ぶことができたのでしょう。
- ・ 3 日の失踪のあと、イエスは家族に発見されますが、失踪したことを叱責したのはヨセフではなく、マリアでした。本来このような状況では父親が叱るべきですが、実際はマリアが叱責しました。このようなやりとりからも、イエスは母と深く結ばれていましたが、父との関係は薄かったのではないかと推測されます。
- ・ 幼子イエスを神殿に連れて行ったとき、年とったシメオンとアンナとの出会いがありました。この二人は老年期にあり神を見出すため祈りの生活をしていたと書

かれています。観想のうちに神を求め、神を賛美する生活をしていました。これは私たちの老年期の過ごし方について一つの参考となるのではないのでしょうか。

- ・これは単なる参考のための解釈です。イエス・マリア・ヨセフの関係をよくみると、何の問題もない理想的な家族関係ではなかったように思います（セミナーでは取り上げなかったのですが、イエスと母マリアの対話も妙なものが多いです）。単に理想的な聖家族として尊敬するよりも、現実の問題を抱える家族の一つとしてみると、私たちの現実の家族の関係を見直し、改善していくヒントがあるかもしれません。

3. 家族のために・ともに（何を願うか）

3-1：ワークシート（3頁目）：

- ・このワークシートは家族というテーマがミッション 2030 の4本柱に全部ひろく関わっているので作りました。つぎの点を参考にして究明してください。

3-2：祈りを深める：

- ・日本では家族全員がカトリックという家庭は少なく、一人だけがカトリックという家庭が多いのではないかと思います。したがって家族でともに祈るということは少ないでしょう。
- ・もし家族の中で信者が複数いるならば、ともに祈りのときをもつ工夫をしてみたらどうでしょうか。ほんのちょっとの時間でもよいと思います。
- ・もし家族の中で一人だけが信者ならば、家族のために祈りをささげる時間を作ってみてください。離れて住んでいる家族のために祈ることもとても大切でしょう。

3-3：福音を伝える：

- ・家族に福音を伝えることは難しい、ほんとうに難しいことだと思います。
- ・それでも、信仰をもっていない家族のメンバーに今何かできることがないかを考えてみましょう。
- ・洗礼を受けていても信仰を失っているように見える家族のために今、何ができるかを考え、祈り求めてみましょう。
- ・家族で信仰を共有できている人の場合、ともに何ができるかを改めて考えてみましょう。夫婦で、親子で福音を誰にどのように伝えたらよいのでしょうか。家の近所に、親類の中に、福音の喜びを必要としている人がいるかもしれません。その人たちに何ができるかともに考えて、話し合い、願い求めてみましょう。

3-4：共同体を生きる：

- ・家族はすべての共同体の基礎だと思います。自分の家族に共同体的な交わりがあるかどうかふりかえってみましょう。
- ・家族が真の共同体になるように今、何が必要だと思うのでしょうか。それを願い求

めてみましょう。例えば、対話・ゆるし・和解・祝い・祈りなどなど。

3-5: きょうどうを生きる:

- ・家族のライフステージはさまざまでしょうが、家族のメンバーと今、何を協力していくことが必要でしょうか。それをふりかえてみましょう。
- ・子育てがメインの人は、イエスの子ども時代のエピソードを参考にしてみてください。
- ・高齢者を抱える家族、あるいは、自分が高齢者である場合、シメオンとアンナの生き方を参考に、何ができるか、何を大切に生きていくかをふりかえてみてください。(いずれもルカ2章を参照)

4: ミッション2030の4本柱の進捗状況の報告:

4-1: 祈りを深めるグループ:

- ・5月の主なイベント(参加者数は概算):

①5月14日(日): 第1回ミッション2030と祈りを深めるセミナー
@ヨセフホール(130名)

テーマ: 「ミッション2030の説明、
聖イグナチオの霊操・特別究明、
福音の喜びを見つめてみる」

②5月19日(金): 聖体賛美式@ザビエル聖堂(100名)

③5月28日(日): リビング・ロザリー@主聖堂(80名)

- ・6月の主なイベント:

①6月04日(日): 祈りの集い@ザビエル聖堂
「聖書通読リレー」(20名)

Sr. 杉原の講話「聖体礼拝の恵み」(80名)

Sr. 富田の講話「ロザリオの祈りの恵み」(40名)

Fr. 英の講話「共同体の一致」(25名)

「聖歌を歌おう」(40名)

「聖体賛美式(ベネディクション)」(90名)

②6月11日(日): 第2回ミッション2030と祈りを深めるセミナー
@ヨセフホール(130名)

テーマ: 「神との生きた交わりを深めるために、
ありがとう、ごめんなさい、お願いします、
霊操・一般究明」

③6月16日(金): 「聖体礼拝」@ザビエル聖堂

Fr. 英の講話「神との生きた交わりを深めるために」(40名)

④6月から「祈りのカード」を厚手の紙にしてカラー化した。

・7月の主なイベント：

- ①7月09日(日)：第3回ミッション2030と祈りを深めるセミナー
@ヨセフホール(120名)
テーマ：「家族と祈り—家族とのかかわりを見つめなおす」
- ②7月23日(日)：Fr.ケルクマンの英語講話「イグナチオの霊操—愛を頂くために」
@岐部ホール310、日本語通訳付き
- ③7月28日(金)：ラビリンス・ウォーク@ヨセフホール
7月29日(土)：ラビリンス・ウォーク@ヨセフホール
- ④7月29日(土)：聖イグナチの祝日のための「講話、黙想、聖体顕示」
@ザビエル聖堂、13:00~17:00
Sr.品川の講話「聖イグナチオが求めていたもの」英語通訳付き
- ⑤7月22日(土)から30日まで聖イグナチオの取り次ぎを求める祈り

・8月の主なイベント：

- ①8月6日(日)から8月15日(火)の平和旬間に「平和の祈り2017」を唱える。

4-2：福音を伝える：

- ・「開かれた教会」というミッション2030の宣言内容の具体化を目指す。そのために、
 - ①新しくつながりを求めて来る人を迎え入れる体制作り(ネットを通じた迎え入れ)、
 - ②教会を訪ねて来る人の迎え入れ体制の充実(広報連絡会)；コンシェルジュ体制構築の準備、
 - ③信徒による講座開設の準備と支援。
- ・2018年本格的な活動を開始する。

4-3：共同体を生きる：

- ・2019年本格的活動開始だが、現在3つの活動進行中。
- ・受洗・改宗5年までの信徒を対象にアンケート調査を行った。
アンケートを923名の対象者に郵送。24名宛先不明で返送。899名に届く。回答者291名で回収率約32%。秋口には結果を発表する予定。現在アンケート結果を精査中。
- ・青少年の活動支援の一環として7月29日から8月7日までインドネシアのジョグジャカルタで開催されるアジアン・ユースデーに当教会から7名の若手信徒を派遣することになり、7月16日(日)の10時ミサで主任司祭による派遣の祝福式が行われる。派遣費用は青年たちが募金活動を行って集めた献金で充当。9月3日(日)にヨセフホールにて帰国報告会を開催する予定。
- ・「生きた共同体の分かち合い」という信仰にもとづく分かち合いを一昨年の黙想会から始めた。不定期だが、関心のある方は「共同体を生きる」グループ担当者まで。

4-4：新しいきょうどう：

- ・今回、報告事項はありません。

5. 次回セミナー：

- ・9月10日（日）午後4時から5時半までヨセフホールで行われます。

文責：英神父とミッション 2030 促進チーム

配付資料：

祈りのセミナー3 2017年7月9日、「意識の究明」、「ルカによる福音 2：22～52」、
「家族のために・ともに（何を願うか）」

意識の究明（1日の終わりに、15分くらいかけて）

1. 心を整える（感謝）

- ・まず呼吸を整え、祈りの心を整えるようにする。
- ・今日1日過ごせたことを、神に感謝し、その心で究明に入る。

2. 光を求める

- ・今日1日を神の目でふりかえることができるように願う。
- ・単なる反省や自己分析に終わらないように、聖霊の照らしを願う。

3. ふりかえり

- ①今日1日、心が動かされたことはどんなことだっただろうか。
 - ・ポイントを決めて：例えば、家族のことについてなど。
 - ・それをノートに書き出してみてもよい。
- ②心の動き・考え・思いなどをゆっくりと味わってみる。
- ③その中で、何か気づくことがあるだろうか。

4. 対話

- ①そのことを通して、神は何を伝えたかったのだろうか。
神の視点から見て、その出来事の意味を噛みしめてみる。
- ②私の方から、「ありがとう」・「ごめんなさい」などの言葉で神に伝える。
あるいは、今の素直な思いを自分の言葉で神に祈る。

5. 願い「お願いします」

- ・明日に向けて、必要な恵みを具体的に願う。
- ・恵みを願う意向で、主の祈りを唱えて終わる。

ルカによる福音（家族の関係をふりかえる）

◆神殿で献げられる

2:22 さて、モーセの律法に定められた彼らの清めの期間が過ぎたとき、両親はその子を主に献げるため、エルサレムに連れて行った。2:23 それは主の律法に、「初めて生まれる男子は皆、主のために聖別される」と書いてあるからである。2:24 また、主の律法に言われているとおりに、山鳩一つがいか、家鳩の雛二羽をいけにえとして献げるためであった。

2:25 そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい人で信仰があつく、イスラエルの慰められるのを待ち望み、聖霊が彼にとどまっていた。2:26 そして、主が遣わすメシアに会うまでは決して死なない、とのお告げを聖霊から受けていた。2:27 シメオンが“霊”に導かれて神殿の境内に入って来たとき、両親は、幼子のために律法の規定どおりにいけにえを献げようとして、イエスを連れて来た。2:28 シメオンは幼子を腕に抱き、神をたたえて言った。

2:29 「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり／この僕を安らかに去らせてくださいます。

2:30 わたしはこの目であなたの救いを見たからです。

2:31 これは万民のために整えてくださった救いで、

2:32 異邦人を照らす啓示の光、／あなたの民イスラエルの誉れです。」

2:33 父と母は、幼子についてこのように言われたことに驚いていた。2:34 シメオンは彼らを祝福し、母親のマリアに言った。「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。2:35 ——あなた自身も剣で心を刺し貫かれます——多くの人の心にある思いがあらわにされるためです。」

2:36 また、アシェル族のファヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。非常に年をとっていて、若いとき嫁いであら七年間夫と共に暮らしたが、2:37 夫に死に別れ、八十四歳になっていた。彼女は神殿を離れず、断食したり祈ったりして、夜も昼も神に仕えていたが、2:38 そのとき、近づいて来て神を賛美し、エルサレムの救いを待ち望んでいる人々皆に幼子のことを話した。

◆ナザレに帰る

2:39 親子は主の律法で定められたことをみな終えたので、自分たちの町であるガリラヤのナザレに帰った。2:40 幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた。

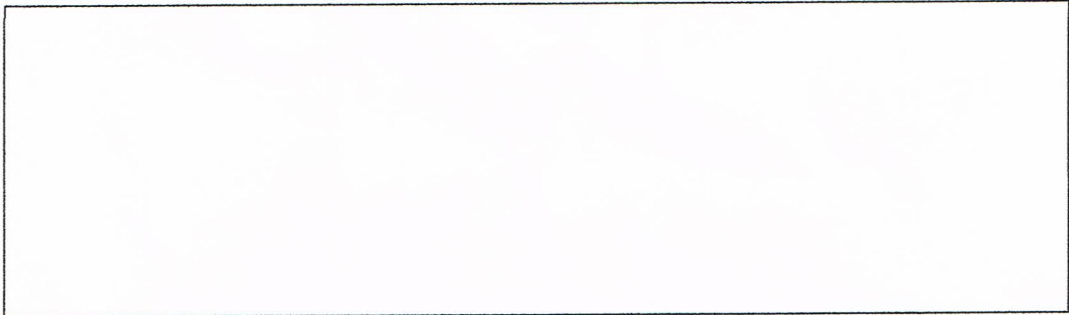
◆神殿での少年イエス

2:41 さて、両親は過越祭には毎年エルサレムへ旅をした。2:42 イエスが十二歳になったときも、両親は祭りの慣習に従って都に上った。2:43 祭りの期間が終わって帰路についたとき、少年イエスはエルサレムに残っておられたが、両親はそれに気づかなかった。2:44 イエスが道連れの中にいるものと思い、一日分の道のりを行ってしまい、それから、親類や知人の間を捜し回ったが、2:45 見つからなかったので、捜しながらエルサレムに引き返した。2:46 三日の後、イエスが神殿の境内で学者たちの真ん中に座り、話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。2:47 聞いている人は皆、イエスの賢い受け答えに驚いていた。2:48 両親はイエスを見て驚き、母が言った。「なぜこんなことをしてくれたのです。御覧なさい。お父さんもわたしも心配して捜していたのです。」2:49 すると、イエスは言われた。「どうしてわたしを捜したのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか。」2:50 しかし、両親にはイエスの言葉の意味が分からなかった。

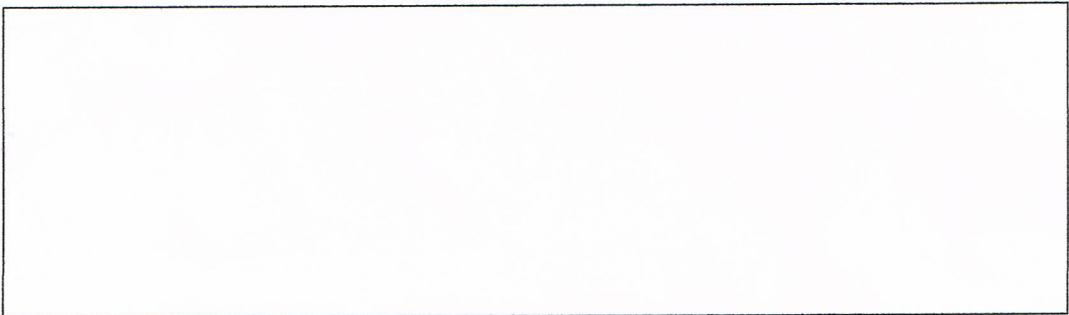
2:51 それから、イエスは一緒に下って行き、ナザレに帰り、両親に仕えてお暮らしになった。母はこれらのことをすべて心に納めていた。2:52 イエスは知恵が増し、背丈も伸び、神と人ともに愛された。

家族のために・ともに（何を願うか）

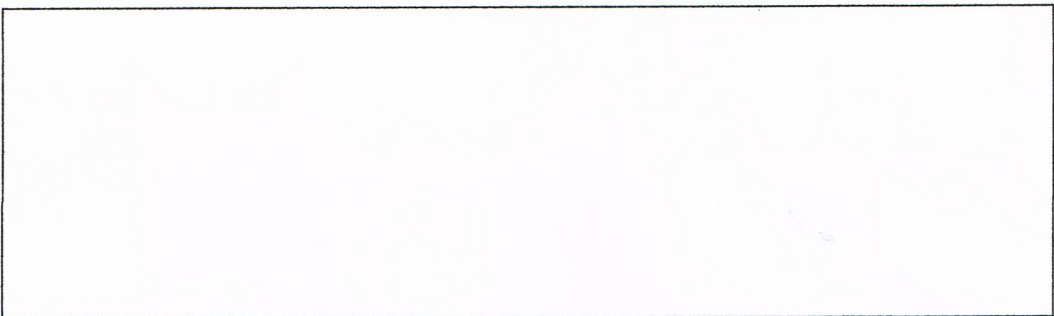
祈りを深める



福音を伝える



共同体を生きる



きょうどうを生きる

